

農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究
 脱炭素・環境対応プロジェクト
 農林水産分野における炭素吸収源対策技術の開発
 研究概要図

個別課題番号	20319389
個別課題名	ブルーカーボンの評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発

研究実施期間	令和2年度～令和6年度（5年間）
代表機関	国立研究開発法人 水産研究・教育機構
研究開発責任者	堀 正和
研究開発責任者 連絡先	TEL : 0829-55-0666
共同研究機関	国立大学法人 東京大学（大気海洋研究所） 国立大学法人 北海道大学（北方生物圏フィールド科学センター） 国立大学法人 広島大学（大学院工学研究科） 国立研究開発法人 海上・港湾・空港技術研究所 （港湾空港技術研究所） 岩手医科大学 鹿児島県（水産技術開発センター） 徳島県（県立農林水産総合技術支援センター水産研究課） 新潟県（水産海洋研究所） 千葉県（水産総合研究センター東京湾漁業研究所） 山川町漁業協同組合

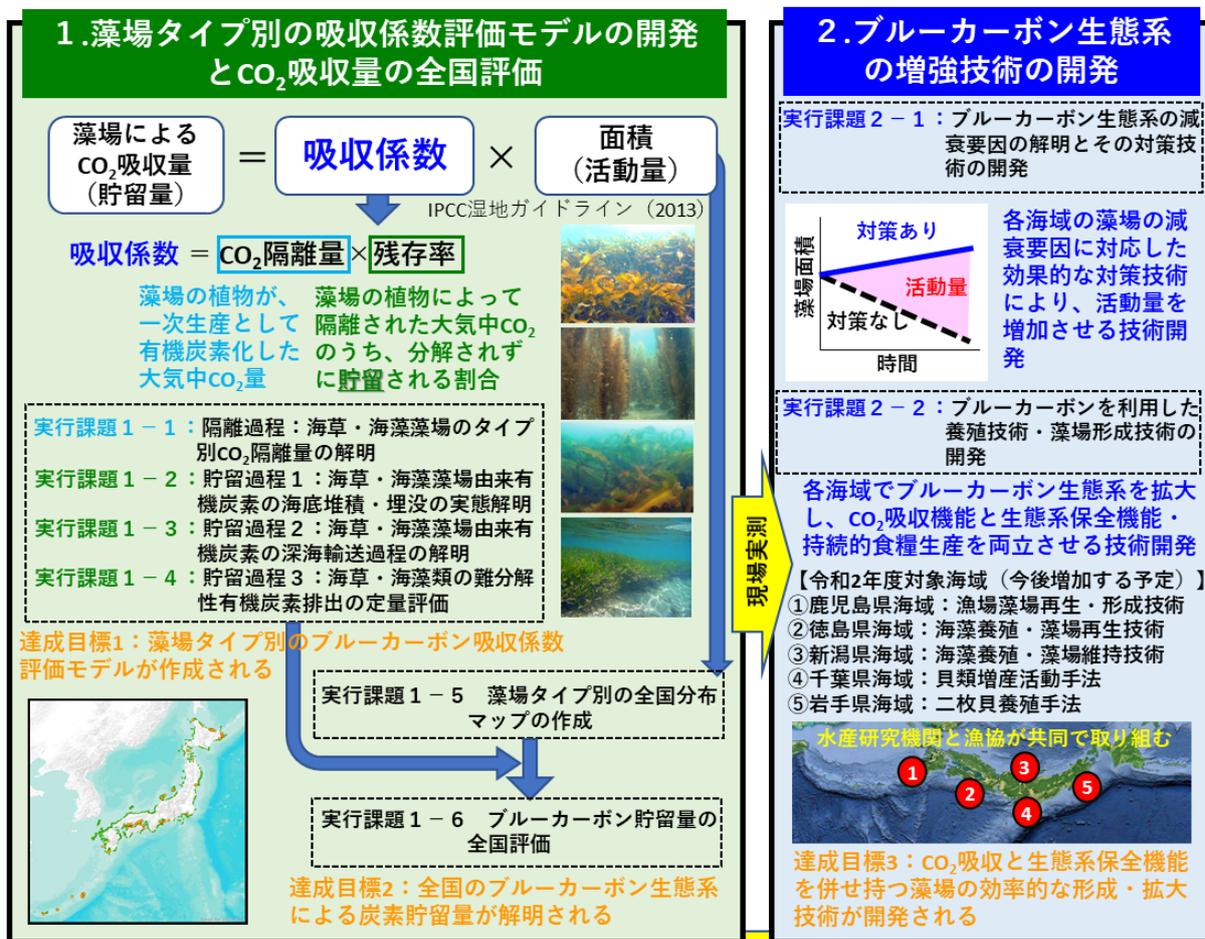
< 研究概要図 >

公募課題名	ブルーカーボンの評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発
-------	-------------------------------

【研究開発の目的と達成目標】

- ・我が国の温室効果ガスインベントリ報告書への登録に向け、精緻なCO₂吸収源評価が可能な藻場タイプ別のブルーカーボン評価モデルを開発する ⇒ **20タイプのモデルを構築**
- ・その評価モデルを用いたブルーカーボン貯留量の全国評価を実施 ⇒ **IPCCの基準を順守**
- ・CO₂吸収源・生態系保全機能を併せ持つ藻場の効率的な形成・拡大技術を開発 ⇒ **2つ以上**

【研究課題・内容と実施体制】



【実用化・普及の波及効果と国民生活等への貢献】

- ・藻場を回復・維持することにより、環境負荷の小さい持続的な水産業の発展に貢献
- ・温室効果ガスインベントリ報告書へブルーカーボンの新たな登録が可能となり、我が国のパリ協定へのNDC (GHG削減目標: 2013年比で26.0%減、2050年までに80%減) の推進に貢献
- ・ブルーカーボン生態系のコベネフィット (生態系保全・食糧供給・バイオマス利用など) を活用した気候変動の緩和・適応策により、脱炭素化社会の実現・SDGsの達成に貢献